

「令和2年度以降の幌延深地層研究計画（案）」の受け入れに係る道の対応に関する説明会での主な意見

**（１）道民向け説明会（札幌）**

- 20年間なぜ確認会議を開催しなかったのか。過去の反省に立って開催することにしたのか。
- 道民説明会を旭川市で開催すべき。
- 研究受入反対を議決した自治体に出向き説明すべき。
- NUMOは基盤研究は終了したとしているのに、なぜ続けるのか。
- 12月5日に意見を締め切り、10日容認という短い時間で、道はどうやって道民の意見を判断したのか。結論ありきではないか。
- 9年で終わることを研究計画案に明記させて担保とすべき。
- 確認会議に地層処分に批判的な専門家を入れるべき。
- 国が法律で定める地層処分は地震大国の我が国の現状と合致しない。毅然たる態度で国にももの申すべき。
- 道のやるべきことは三者協定に合致するかではなく、予定どおり20年程度で終了させることである。

**（２）道民向け説明会（幌延）**

- 最終処分場にしないことなどを計画案を加えたが何が変わるのか。
- 原子力機構への回答に、「再延長を認めないこと」を書き込んで欲しい。
- 確認会議も知事の受入れ表明もスケジュールが決まっていたのではないかと。結論は認められない。
- 確認会議の専門有識者の人選があいまい。選定基準やプロセスを示して欲しい。
- NUMOの人材や資金の活用は三者協定違反。
- 機構は、研究は順調と言っているながら、急の延長申し入れはおかしい。

**（３）道民向け説明会（函館）**

- 延長期間が、9年間となった理由は何か。
- 幌延の地質や地層は研究に不適ではないか。
- 知事の判断に当たって、道民意見はどのように反映したのか。

**（４）道民向け説明会（帯広）**

- 道の受け入れの判断をする前に、説明会を開き道民意見を聞くべき。知事が来て説明すべき。
- 9年後更なる延長となるのではないかと。
- 知事は常々道民目線というが、反対意見が多数を占める中での判断は道民の声を無視している。
- 瑞浪は岐阜県知事が研究を終了させた。道知事も20年で終了させるべき。
- 今後、確認会議の結果を各振興局単位で知事が説明すべき。
- 説明会での意見をすべて知事に伝えること。